

県内3万件超の
一日最大検査能力
をフル活用して

無症状感染者の発見と保護へ 「千葉方式」を提言しました 県独自に大規模な検査を！

「感染爆発」。千葉県内でもついに一日4桁の新規感染者が確認されています。デルタ株が広がり、20代から50代が多くをしめ、医療機関、市役所、高校、学習塾、保育園などでのクラスターも相次いでいます。ワクチンは重要ですが、接種完了・抗体獲得までには一定の期間を要します。

日本共産党は8月5日、検査の拡充で「陰性県民」を圧倒的多数にして、日常の社会生活、経済活動を維持しながら、感染者は保護して、感染源を減らすという「千葉方式」の確立を提言しました。近く、知事に直接、要請します。



右から…みわ由美県議、
加藤英雄県議

提言の主な内容

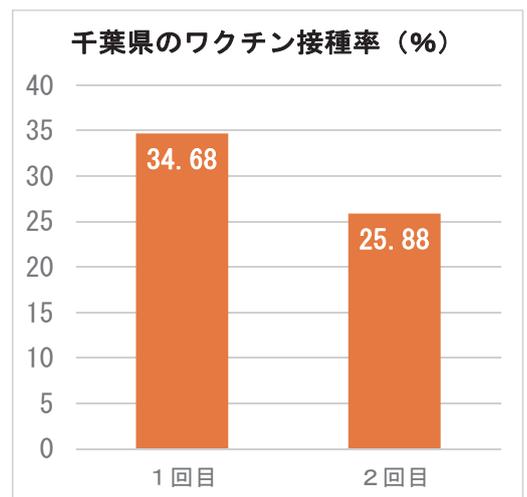
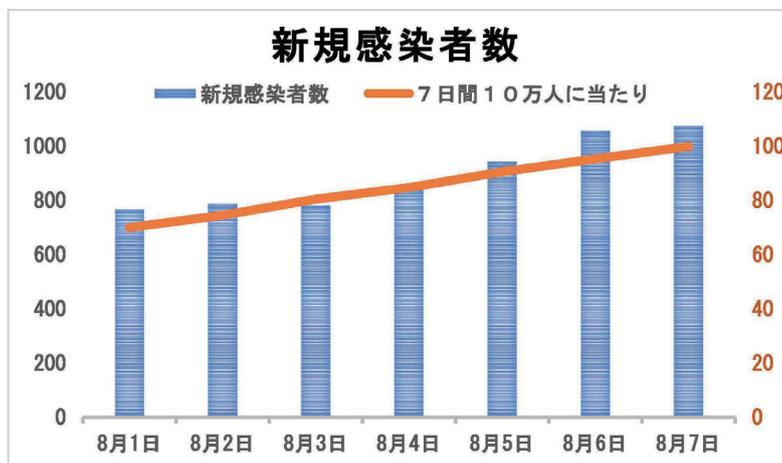
事業所・家庭に唾液のPCR検査または抗原検査のキットを定期的に無料で配布し、回収する大規模な検査体制を県独自の感染防止対策の柱に据える。

主要な駅や繁華街などで県民、やむを得ず来県する人に「検査キット」を配布する。

成田空港の国内線利用者への検査を政府と成田空港株式会社（NAA）の責任で実施する。

左同様に学校、保育所・園、学童保育所などで、子どもたちと職員を検査する。

感染リスクの高い高齢者と障害者の施設、医療機関の検査は、今後も継続する。



8月6日時点（県資料より作成）

病床計画ステージ4へ 16日から運用
 病床数 1275 → 1383
 うち重症者用 101 → 127